市制130周年記念事業 市ホームページ

市制130周年記念事業 公式Instagram

発行 宇都宮市　発行日 令和8年7月1日

市長あいさつ

本市は、明治29年の市制施行から産業や文化の発展を遂げながら、北関東初の50万人都市として中核的な役割を担い、成長を続けてまいりました。

また、平成27年には、地域等の各拠点にまちの機能を集約し、公共交通ネットワークで繋ぎ、どこに住んでいても様々なサービスを享受できる「ネットワーク型コンパクトシティ（ＮＣＣ）」を全国に先駆けて打ち出し、その基軸となる次世代型路面電車「ライトライン」を令和5年8月に開業するなど、先駆的なまちづくりに取り組んでおります。

さらに、このＮＣＣを土台に、「地域共生社会」「地域経済循環社会」「脱炭素社会」の3つの社会が、「人」づくりの取組や「デジタル」技術の活用によって発展する、夢や希望がかなうまち「スーパースマートシティ（ＳＳＣ）」の実現を目指しており、こうしたまちづくりは多くの人や企業から選ばれるまちとして評価をいただいているところであります。

本市は、令和8年4月1日に、市制施行130周年を迎えました。

この節目を捉え、「共に創り 輝き続ける うつのみや 未来を拓くまちづくり」をテーマに、様々な事業を実施し、皆様にとって記憶に残る1年としていくとともに、これまでの歩みを振り返りながら、先人たちから受け継いできた歴史や文化、都市基盤などを更に磨き上げ、新たな時代に向けて一層飛躍し、50年先、100年先も輝き続けるうつのみやを全市を挙げて創りあげてまいります。

宇都宮市長　佐藤栄一

面積と人口

面積：416.85㎢
人口：509,381人
（令和8年4月1日現在）

市章

明治44年2月14日に制定した市章は、かつて宇都宮城が、亀が丘城といわれていたことにちなみ、亀甲形と宇都宮の「宮」の文字を図案化したもので、古い歴史をもつ郷土の万年にわたる栄光と限りない発展を表徴するものです。

市の花【さつき】

明治100年にあたる昭和43年に、明治100周年記念事業として、宇都宮商工会議所、宇都宮市商店街連盟、宇都宮観光協会の共催により、「郷土の花」の募集が行われた結果、「さつき」が選ばれ、市は昭和45年4月1日に市の花に制定しました。

市の木【イチョウ】

市制90周年記念事業の一環として、「市の木」の募集が行われた結果、「イチョウ」が圧倒的人気で第1位となり、昭和61年4月1日に市の木に制定しました。

なお、「大イチョウ」は、市の天然記念物に指定されており、長年市民に親しまれています。

宇都宮市マスコットキャラクター「ミヤリー」

「ミヤリー」は、今年で誕生から20年を迎えます。市の花・さつきの花冠をかぶった妖精がモチーフで、宇都宮の魅力をPRする、自称「スーパーアイドル」です。ますます精力的に活動するミヤリーに、今後もご注目ください！

うつのみやの実力

世界にも類を見ない取組！

共働き子育てしやすい街 ※1	住みたい街 ※2	住みよさ ※3	SDGs先進度 環境分野 ※4
5年連続全国トップ5	第5位	第4位	第1位

※1 2025年度日経xwoman×日本経済新聞社「共働き子育てしやすい街ランキング」20万人以上の都市
※2 2025年度東洋大東建託株式会社「住みたい街ランキング」比賀東後
※3 2025年度東洋経済新報社「都市データパック」50万人以上都市
※4 日経グローカル「第4回SDGs先進度調査」全国815市区

ライトラインの主な受賞歴

その他受賞多数！

令和5年10月 5日
グッドデザイン賞特別賞「グッドフォーカス賞（地域社会デザイン）」

令和6年 5月23日
2024年ローレル賞

令和7年12月24日
令和7年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰（内閣総理大臣表彰）

ライトラインの整備効果

-ライフスタイルの変化-（令和7年5月時点）

1.公共交通全体の利便性の向上
開業前と比較した公共交通全体満足度
「満足」・「やや満足」 約25ポイント増
「不満」・「やや不満」 約17ポイント減
出典：令和6年度ライトライン利用者調査

2.自動車の転換台数（試算）
平日1日当たりの自動車の転換台数
約5,000台
開業1年目より1,200台増加
出典：令和6年度ライトライン利用者調査

3.外出機会の増加
開業前と比較した外出率の変化
約7ポイント増
出典：ライトライン開業後における生活行動意識調査

4.歩く機会の増加
開業前と比較した40歳以上の平均歩数/日
207歩増加
歩く歩数の増加による医療費抑制効果
約16億円～18億円（宇都宮市及び芳賀町における効果）
出典：ライトライン開業後における生活行動意識調査

-まちづくりの変化-

1.ライトライン沿線人口（宇都宮市）
約5,600人増　約10%増
（H24→R6）
出典：宇都宮市「住民基本台帳人口」

2.ライトライン沿線の地価（宇都宮市）
約9%増（商業地）　約14%増（住宅地）
（H24→R7）
出典：国土交通省「地価公示」（百円未満四捨五入）※各地点の平均を算出

3.ある1日の鬼怒通りにおける交通量
開業前から
約2,000台減少
出典：第2回芳賀・宇都宮地域交通対策協議会資料より抜粋

▶ライトラインは、2036年3月を目標にJR宇都宮駅西側の開業に向けた整備を進めています

宇都宮ブランド

協同組合宇都宮餃子会の加盟店をはじめ、市内では300軒以上の店舗で餃子を楽しむことができます。

バーテンダーの全国大会優勝者も多く、宇都宮市でしか味わうことのできない色・味・香りを楽しむことができます。

数多くのジャズプレイヤーを輩出しており、市内のバーやライブハウスで日常的にジャズを楽しむことができます。

Utsunomiya City 2026
130th
Anniversary

ロゴマークに込めた思い

数字の「１」には本市の自然・文化としてイチョウやさつき、大谷石や黄ぶなを、「３」には名物の餃子やカクテル、農産物を、「０」には本市の魅力であるライトラインやプロスポーツ、ジャズなど、本市を連想させる様々な要素を取り入れたロゴマークです。

当ロゴマークは、田代佳奈（タシロカナ）さん（文星芸術大学学生）に作成いただきました。

共に創り 輝き続ける うつのみや
未来を拓くまちづくり

テーマに込めた思い

社会経済環境が変化する中にあっても、多様な主体が力を発揮し合いながら発展するまちの姿と、未来にわたって活力を維持し続ける本市のまちづくりにより、地方自治体を先導していくという決意を表現しています。

▲ポスター一覧はこちら！

ポスターデザイン

宇都宮メディア・アーツ専門学校の約60名の生徒にポスターデザインを作成いただき、相良（アイラ）さくらさんの作品を当事業のメインビジュアルに選定しました。

生徒の皆さんに作成いただいた全作品は、特設サイトに掲載しておりますので是非ご覧ください。

※写真はイメージです

東京ディズニーリゾート®スペシャルパレードが宇都宮市にやってくる！

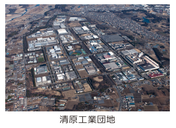
令和8年11月15日(日)に、宇都宮青年会議所が設立60周年と市制130周年を記念するイベント「宮コレ！」を市内中心部で開催します。

イベントでは、東京ディズニーリゾートを飛び出したディズニーの仲間たちが、夢と笑顔をお届けするために、「宮コレ！」に参加しパレードを行い、「ジャンポリミッキー！」の音楽にあわせ、地元の子どもたちと一緒にパレードを盛り上げます。

これまでのうつのみや

明治17年 [1884年]	栃木県庁が栃木から宇都宮へ移転
明治22年 [1889年]	町制施行
明治29年 [1896年]	市制施行
昭和20年 [1945年]	空襲で市街地の大半を焼失
昭和29年 [1954年]	合併により隣接1町10か村を編入
～30年 [1955年]	
昭和36年 [1961年]	宇都宮工業団地の造成
昭和47年 [1972年]	東北自動車道が開通
昭和48年 [1973年]	清原工業団地等の造成
昭和55年 [1980年]	「栃の葉国体」開催
昭和61年 [1986年]	現庁舎開庁
平成 4年 [1992年]	「ジャパンカップサイクルロードレース」初開催
平成 8年 [1996年]	市制100周年、中核市に移行
	農林公園ろまんちっく村オープン
平成18年 [2006年]	オリオンスクエアオープン
平成19年 [2007年]	上河内町及び河内町と合併し、北関東初の50万人都市となる
	宇都宮城址公園完成
	うつのみや表参道スクエア及び宇都宮市民プラザの供用開始
平成20年 [2008年]	市内初の地域内交通「清原さきがけ号」の本格運行開始
	ＪＲ宇都宮駅東口駅前広場の供用開始
平成21年 [2009年]	「栃木SC」Ｊリーグ参入
平成22年 [2010年]	「リンク栃木ブレックス」日本バスケットボールリーグ優勝
	「ジャパンカップクリテリウム」初開催
平成24年 [2012年]	「道の駅うつのみや」ろまんちっく村リニューアルオープン
	ＪＲ雀宮駅西口駅前広場の供用開始
	「宇都宮ブリッツェン」Ｊプロツアー初の総合優勝
	テクノポリスセンター土地区画整理事業の完了
平成26年 [2014年]	「ねんりんピック栃木2014」開催
平成27年 [2015年]	「ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン」の策定
	「宇都宮ライトレール株式会社」を設立
平成28年 [2016年]	ＪＲ岡本駅東西自由通路・橋上駅舎の供用開始
	「FIBA3×3ワールドツアー」初開催

初代 宇都宮市庁舎のイメージ



清原工業団地

合併協定調印式

「栃木SC」Ｊリーグ参入

「ジャパンカップクリテリウム」初開催

「FIBA3×3ワールドツアー」初開催

うつのみや この10年間の歩み

平成29年【2017年】

●「リンク栃木ブレックス」がBリーグの初代王者に輝く

平成30年【2018年】

●「大谷石文化」の日本遺産認定

●ＬＲＴ着工

令和 元年【2019年】

●「SDGs未来都市」に選定
●ＪＲ宇都宮駅東口地区施設の整備に着手

令和 2年【2020年】

●宇都宮サテライトオフィス（現 東京オフィス）の開設
●産業拠点である清原工業団地内でＬＲＴのレールの敷設工事が開始

令和 3年【2021年】

●約30年ぶりの新設小学校「ゆいの杜小学校」開校
●交通ＩＣカード「totra（トトラ）」の導入

●地域新電力会社「宇都宮ライトパワー株式会社」を設立

令和 4年【2022年】

●「FIBA3×3ワールドツアー」の開幕戦「オープナー」初開催
●「いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会」開催

●宮みらいライトヒル及びライトキューブ宇都宮オープン
●ＪＲ宇都宮駅東側ＬＲＴ沿線エリアが「脱炭素先行地域」に選定

令和 5年【2023年】

●「スーパースマートシティ」を目指すまちの姿として総合計画に位置付ける

●芳賀・宇都宮ＬＲＴ（ライトライン）開業

●大谷コネクト（大谷観光周遊拠点施設）オープン
●県内市町で初めての東京圏でのテレビCM放映

令和 6年【2024年】

●ライトライン開業1周年、利用者数600万人突破
●「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」が重要文化的景観に選定

●沖縄県うるま市と友好都市提携を締結
●「ホンダヒート」が宇都宮市への活動拠点移転を決定
●城山西小学校が文部科学大臣優秀教職員表彰「社会に開かれた教育実践奨励賞」を受賞

令和 7年【2025年】

●ライトラインについて、令和7年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰（内閣総理大臣表彰）を受賞

●「2025大阪・関西万博地方創生SDGsフェス」に出展
●「宇都宮ブレックス」がBリーグ年間王者及びアジアNo.1となる

令和 8年【2026年】
市制130周年

●フレスポうつのみや市場オープン

●３環状１２放射道路の全線開通

●アークタウン宇都宮（東部総合公園）オープン

NEXT宇都宮

うつのみや いまとこれから

～スーパースマートシティの実現に向けて～

社会潮流に対応しながら、「子どもから高齢者まで、誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなうまち『スーパースマートシティ』」の実現を目指します。

「スーパースマートシティ」は、100年先も発展し続けるまちの姿「ネットワーク型コンパクトシティ（NCC）」を土台に、「地域共生社会」「地域経済循環社会」「脱炭素社会」の3つの社会が、「人」づくりの取組や「デジタル」技術の活用によって発展する「夢や希望がかなうまち」です。

Super Smart City UTSUNOMIYA SDGs

人・モノ・情報が行き交う「地域経済循環社会」

▲ライトキューブ宇都宮での展示の様子

▲フレスポうつのみや市場オープニングイベントの様子

人や企業から選ばれ将来にわたり継続的に発展できるよう、産業の集積・育成や起業などの支援を行っています。

また、大谷石文化やプロスポーツなどの地域資源の活用に加え、新たな世界大会の開催などにより、誰もが活躍し、多種多様な人・モノ・情報が交流する社会の構築を目指しています。

まちづくりを支える「人」づくり

▲フェムテックフォーラム2025の様子

進学、就職、結婚、出産などの市民のライフイベントに応じた希望がかなうよう取組を進めます。

また、女性が希望に沿って、様々な分野において個々の能力を発揮しながらいきいきと活躍できるまち『女性活躍リーディングシティうつのみや』の実現を推進しています。

絆を深め、共に支え合う「地域共生社会」

▲移動販売車を利用する様子

居場所づくりや交流の場の整備などにより、年齢や性別、障がいの有無に関わらず、誰もが「人」や「社会」とつながり、生きがいを持って暮らせる社会の構築を目指しています。

暮らしをよくする「デジタル」の活用

様々な分野の取組の効果をより一層高めるため、デジタルを積極的に活用していきます。

DXの推進により、行政手続の電子化など、暮らしの利便性を高めるとともに、災害時の情報インフラ確保など安全・安心に向けた取組にも活用していきます。

CO2排出量を実質ゼロとする「脱炭素社会」

ライトラインにおいて、地域由来の再生可能エネルギー100%で走行する「ゼロカーボントランスポート」を実現するとともに、EV/バス等の導入を促進しています。

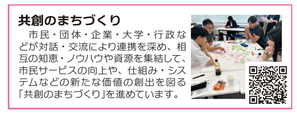
市民一人ひとりの環境に配慮した行動により、二酸化炭素の排出量を実質ゼロとし、未来への責任を果たす社会の構築を目指しています。

持続可能なまちづくりの基盤「NCC」

県都の玄関口にふさわしい、世界に誇れる駅前空間を創出していきます。

また、ライトラインのJR宇都宮駅西側延伸など、車が運転できなくても移動しやすく、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちの形成を目指しています。

共創のまちづくり



市民・団体・企業・大学・行政などが対話・交流により連携を深め、相互の知恵・ノウハウや資源を集結して、市民サービスの向上や、仕組み・システムなどの新たな価値の創出を図る「共創のまちづくり」を進めています。